

思ひ草

第25号

平成30(2018)年1月31日 発行

教員を目指す仲間たち

人間開発学部教授 うえぐち たかふみ
上口 孝文

11月29日の本学部の教授会において、本年度の教員採用試験の結果が報告され、合格者は、小学校(初等43名、健体9名)52名、幼稚園35名、保育園21名、中学・高校の保健体育5名であった。4月には、臨任、非常勤での採用を含めると多くの4年生が新米教員として巣立っていくことになる。

健康体育学科の教員を目指す学生は、柔道の段位を取得して教員採用試験に臨む学生が毎年20名程度いる。柔道の初段の昇段審査を受審するものは通常であれば、毎日2、3時間程度の練習を週5～6日で2年程度の期間が必要であるが、本学部の学生は、40回程度の授業を受講の後に受審することになる。当然のことではあるが並大抵の努力では合格できるまでの技能は習得できない。授業時間以外でも、早朝から柔道場に来て練習する学生、授業終了後も反復練習をする学生が多く見受けられる。特に今年度の4年生は、授業に取り組む姿勢、努力する姿は担当教員が体調を心配するほどの練習内容であった。

教員を目指す、初段を取得するという目標を共有する学生が、

目標達成のため努力を継続する中で、互いの連帯感、仲間意識が醸成されることは当然のことであろう。その中の一人の学生が3年次の4月から、朝7時から3号館の資料室に来て採用試験の準備を始めた。退館するのは施錠される夜9時頃である。土曜日でも夏休みでも彼の姿を見ない日はない。そのような生活が4年次の採用試験が終わるまで続いた。共に昇段を果たした彼の仲間たちは、小学校2名、中学、高校で3名が教員採用試験に合格したが、彼の名は合格者名簿にはない。人の人生には運、不運はつきものであることは理解しているが、彼の努力している姿を知る者として、かける言葉さえ見つからない状態であった。彼の仲間たちは、「彼の早い時期からの準備する姿に刺激を受けた」、「彼の姿に接しなかったら合格しなかった」などと感謝の意を表している。彼の行動が教員を目指す仲間たちを牽引したと言えるであろう。これらの仲間の絆がこれからも続くこと、彼が教採試験に合格する日を心待ちにしている。

建学の精神の涵養を

人間開発学部教授 すぎた ひろし
杉田 洋

2015年、国連が創設されて70周年を迎え、この機会にと世界各地で名所や文化遺産がシンボルカラーの青色でライトアップされました。しかし、美しいはずの「国連ブルー」がなにか悲しげに見えました。東京スカイツリーが青に染まったまさにその瞬間にも、世界では紛争が起こり、絶望的な暮らしや悲惨な人々の姿がテレビに映し出されていたからです。大国の利害がぶつかりあってなかなか世界平和のための合意が見い出せず国連の機能が果たせていないことに歯がゆさも感じますが、あきらめず期待し続けたいものです。「話し合い(合意)」を止めてしまえば「殴り合い(力による強制)」になりかねないからです。

ところで、先月、経済協力機構(OECD)の学習到達度調査(PISA)で初めて実施した「協同問題解決能力」で、日本は参加した国・地域で2位、加盟国の中で1位だったことが公表されました。国研担当者は、この好成績について「日本の特別活動や総合的な学習の時間が育んできた…」とコメントしています。シュライヒャーOECD教育・スキル局長も、2030年小学生が身に付けておくべき能力として「コラボレーションし、アイデアをつなぎ合わせる協働が更に必要」とし、このような人格

特性まではぐくんでいる日本の学校教育を高く評価しています。

新学習指導要領にも、これからの学校に求められるのは、「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」と示されました。

確かに、人間は独りでは生きられませんし、自分の為だけには頑張れません。孤独に強くなる必要はありますが孤立したら人間としての幸せも薄いのではないのでしょうか。違いや多様性を受け入れながら主体的、協働的に生きることは、いじめ等の問題を起こさない学級の一員としても、職場、地域、国家、国際社会の担い手としても、何より世界平和を創り出す一人としても必要なことです。

このことは、本学の建学の精神である「主体性を保持した寛容性と謙虚さの精神」とも相通じるものです。改めてこのような「人づくりのプロ」の育成に努めるとともに、今、私が支援を続けているエジプトが発展する上でもこのような精神が必要不可欠だと信じ、今後も粘り強く関わっていくつもりです。

保育実習・教育実習

今年度も、さまざまな施設や学校で保育実習・教育実習をさせていただき、貴重な経験からたくさんの方のことを学んでいます。

「子どもが好き」の次に必要なこと

子ども支援学科准教授 山瀬 範子

教員や保育士など、子どもと関わる仕事を志す人間開発学部の学生は「子どもが大好き」「子どもがかわいくて仕方がない」であったり、目標になるような「大好きな先生」との出会いを経験していたりする人が大半だと思います。きっかけは「大好き」な気持ちでも、教育・保育について学びを深める中で「好き」だけではない、奥深い仕事であることにも気づいていくことになります。その気づきの機会のひとつが実習です。

保育実習の目標の中に「乳幼児の観察やかかわりを通して発達過程を理解する」という項目があります。「かわいい」「楽しそうに遊んでいる」といった感想ではなく、子どもたちと生活を共にしながら子どもの姿の中にどのような育ちがあるのか、授業で学んだ乳幼児期の発達に関する知識を働かせて観察し、日誌の中に具体的に育つ姿を言葉でまとめなければなりません。「楽しそうに遊んでいる」だけではなく、誰と何をしていた、どこが感情を味わう経験につながっているのか、具体的に観察し、言葉でまとめる必要があるわけです。また、「生活や遊びの一部などの一部分を担当し、参加する」という目標もあります。子ども理解に基づいて子どもの発達を踏まえて一人ひとりの子どもに対して、また、子ども集団に対してどのような援助が必要か考え、実践するということです。「子どもが好き」に加えて子どもの発達を援助する専門職としての奥深さがここにあります。ただ、多くの場合、2つ目の目標は実習生の視点からは「うまくできなかった」ことが多いです。

実習においては「うまくできなかった」ことに気づくことが大切です。ここに気づくには理想の保育像(=「うまくできる」)がイメージできたり、現場の先生の姿を見て「できている」ことがわからないと「できなかった」ことにも気づかないですし、「できなかった」に気づいたからこそ次の学びにつながるからです。実際のところ、保育に正解はないので理想の保育の姿は保育者として試行錯誤する中にあるかもしれませんが、「うまくできなかった」は、「大好き」の次に保育の仕事の面白さにつながる経験になると思います。実習の中でぜひ、見つけてきてください。

教育実習での学び

子ども支援学科 3年 小野 由紀子

10月に幼稚園で2週間の教育実習を行い、年中クラスに入らせて頂きました。今回の教育実習で学んだことの中で特に印象に残っていることが2つあります。

1つ目は子ども達の遊びの連続性、広がりについてです。子ども達が「今日はできなかったから明日続きをしよう」「もっとこうしてみたら面白くなるのではないか」と自分なりに考えたり、工夫したりしている姿や友達の姿を見て「面白そうだな、自分もやってみたいな」と思い、そこから遊びが広がっていき、子ども同士で自分達の遊びを作り出している姿が印象的でした。子ども達のアイデアから牛乳パックを切ってつなげて作ったスライダーのコーナーがありましたが、そこではどんなものだったら速く転がっていくのかまたは転がりにくいのかなど様々なもので試していたり、ボールが飛び出さないようにするにはどのようにコースを直したらよいかを考えていたりして、子ども達は遊びの中で学んでいるのだと改めて感じました。

2つ目は環境設定の大切さについてです。先生方はその日の子ども達の様子から次の日に向けて、その遊びに合った素材を用意しておいたり、コーナーを配置しておいたりしていました。保育室の環境が整えられていることで、その状態が気持ちの良いものと子ども達が思えるようになることが片付けをするということにつながっていくことに気がきました。また、子ども達が次の日も遊びを継続しやすく、登園して自分のやりたいことを見つけたら遊びに入っていくやすかったりするのだと感じました。

今回の教育実習では子ども達の遊びについて多くのことを学ぶことができました。来年度の5月に同じ園で責任実習をさせていただきます。今回の実習で学んだことを生かして、どのような遊びに興味・関心をもっているのかなど、子ども達の遊びの様子を観察する中で学んだことを子ども達が楽しめるような活動へとつなげていくことが出来るようにしていきたいです。



教師塾

今年度も多くの学生が、各自治体の教育委員会で行っている教員養成のための「教師塾」に参加して学んでいます。



東京教師養成塾 研究授業

かながわティーチャーズカレッジ

初等教育学科 4年 北口 里美

私は、神奈川県教育について学び、実践力のある教師になりたいという思いから、ティーチャーズカレッジへの入塾を決意しました。入塾して多くのものを得ることができましたが、ここではその中の二つを紹介します。

一つ目は、教育学講座やその後のグループ協議を通して、教育について広い視野をもって考えることができたようになったことです。他大学の学生や、非常勤講師として教育現場に立っている方々の考えは私にとって新鮮で、新しい価値観を取り入れることができました。二つ目は、スクールライフ・サポーターや、実践力向上講座で多くの児童や先生方と関わったことです。尊敬する先生方に出会い、児童への温かい接し方を目の当たりにして、私も一緒に神奈川県の教員として児童を育てていきたいという思いが強くなりました。

ティーチャーズカレッジで神奈川県の教員を目指す仲間がたくさんでき、また自身の目指す教師像についても改めて考えることができました。

ちば！教職たまごプロジェクト

健康体育学科 4年 村山 優奈

大学3年の4月から母校でたまごプロジェクトに参加させていただきました。活動内容は主に学級担任の授業補助を行いました。私の研修先では、毎週学年を変え、毎時間別の学級の授業を参観させていただきました。そうすることにより、学年ごとの子どもたちの成長の姿や学習の内容はもちろん、各学級の雰囲気や授業の進め方の違いなど多くのことを目で見て、肌で感じて学ぶことができました。学生でいる間でしかこんなにも大勢の先生の授業を見ることはできないと思うので、こういった機会を逃してはならないと思います。私は先生方の板書や発問、子どもたちの反応をノートにメモをしながら補助を行っていました。これは後々、教育実習にも生かすことができました。また、教員採用試験の際にもこの経験を元に子どもたちとの接し方や先生方との関わり方など、面接試験の内容に具体性を持って話すことができたのではないかと思います。1年間、同じ学校で勉強をさせていただくことで年間の先生方の動きも知ることができ、「この先生方と将来共に働きたい」と思い、更に教師という目標を身近に感じることができました。また、千葉の子どもたちと触れ合うことで「千葉の先生になりたい」という想いも強くなりました。

埼玉教員養成セミナー

初等教育学科 4年 石川 涼

私は、教員としての実践力の向上を目的とし、埼玉教員養成セミナーを受講しました。

セミナーでの学校体験実習は1月から9月までの9か月間と年度をまたいでの実習です。そのため、大学の教育実習では経験できない学年末や学級開きの様子を体験することができました。セミナーでの学校体験実習で最も大切だと感じたことは人間関係です。1月から3月までは4年生、4月から9月は5年生で単学級だったこともあり9か月間同じ子供たちと過ごすことができました。そのため、多くの子供たちと信頼関係を築くことができました。はじめは指示がほとんど通らず、悩みましたが、子供たちと正面から向き合い、共に過ごすことで変わっていきました。それは、9か月間築き上げた信頼関係の成果であると思います。また、教職員の皆さんとも積極的にコミュニケーションをとっていくことで気軽に指導をしていただきやすくなりました。

学校体験実習の他に講演・講義・演習があります。これは、各分野の専門家の先生、現職の先生方から実践的かつ具体的ですぐに現場で実践してみようと思うものを沢山学ぶことができるものです。更に宿泊研修やフィールドワークなども行いました。毎回の講演・講義・演習が私の学ぶ意欲、向上心を駆り立てるのに十分すぎるものでした。1か月に1度顔を合わせるセミナー生との意見交換や活動の時間も非常に刺激的で有意義なものでした。また、班に1人専任講師が付いてくださり、相談に乗って親身になって助言をしていただきました。

学校体験実習や講演・講義・演習以外にも埼玉県内の各げんきプラザで行われる体験活動に参加したり、中学校での実習を行ったり、各班で課題研究を行ったりするなど、活動全てが私の教員としてのスタートの基礎になりました。埼玉教員養成セミナーでの活動を4月からの教員生活に生かし、これからも謙虚に自己研鑽していきます。

教育インターンシップ連絡協議会・報告会 経験からの学びをつなぐ！

12月26日(火)15時から、教育インターンシップ連絡協議会・報告会を開催しました。全体会では、田沼茂紀教授からの学部長挨拶と29年度教育インターンシップの全体的な実施状況の報告に引き続き、学生の実習報告と学校や保育園の先生方からの実施状況報告がありました。保育実習について子ども支援学科2年の稲葉ひかりさん、幼稚園実習について子ども支援学科2年の鈴木優雅さん、小学校実習について初等教育学科2年の福本沙江子さんと宮井あすかさん、中学校実習について健康体育学科2年の田村碧月さんと3年の土肥秋菜さんが、教育インターンシップの経験をもとに報告をしました。



各園や学校の実施状況について、横浜市荏田保育園園長の宍戸純子先生、川崎市立鷺沼小学校校長の三ツ木純子先生、横浜市立市ヶ尾中学校生徒指導専任教諭の鈴木一史先生からお話をいただきました。今回の連絡協議会・報告会では、学生を受け入れてくださっている園や学校から30名の先生方にご参加いただき、特に校種別に分かれた分科会では、学生に向けてたくさんのご指導をいただきました。「教育インターンシップの経験を教育実習にどう生かすか」のテーマのもと、グループ別に活発に意見交換をしました。幼稚園・保育園実習では、学生から「子どもとかかわる経験や先生方の声掛けや対応の他、園児がいないときの先生方の姿からも学ぶことができた」等の感想が出されました。小学校部会と中・高校部会では、先生方から「一人の人間として子供たちに関わること、どんな人に育てたいか先をみて子供たちに関わるのが大切」「積極的に子供と関わること、指導されたことを実行すること、子供とも先生方ともコミュニケーションをとることが大切」等、具体的なアドバイスをいただきました。



未来塾

開講講座は「2講座」、延べ受講者数は「397名」でした

今年度の「未来(みらい)塾」の実施状況は以下の通りです。

担当・講座名	開講回数・受講者数
高山真琴 先生の「ピアノ講座」 講座1 ピアノ講座 講座内容：小学校教諭、幼稚園教諭、保育士を志す学生に対する就職対策講座。 学生のレベル、目的に応じた個人レッスン。	45回開講 延べ受講者数148名
講座2 東京都特別区幼稚園教諭採用試験対策ピアノ講座 講座内容：主に東京都特別区幼稚園教諭採用試験受験希望者を対象とした採用試験対策講座。初見の歌唱課題に自身で伴奏を付けて弾き歌いできるようにするためのトレーニング。	65回開講 延べ受講者数249名